1985年5月25日第三種郵便物認可　2014年8月1日発行（毎月1回1日発行）通巻538号

福祉のひろば

8
2014

特集

平和と福祉シリーズ
戦争と福祉は両立しない

社会事業史学会会長（永岡正己さん）に聞く

一三三番目の米軍基地にはしない（京丹後市経ケ岬）

ひろばトーク

一般社団法人Colabo代表　仁藤（にとう）　夢乃（ゆめの）さん

支え、ともに感じ、向き合える大人になりたい

編集　総合社会福祉研究所

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒　604－8083
京都市中京区三条柳馬場東入中之町１０
代表取締役社長　　川下　晃正
ＴＥＬ　（０７５）２１１－７２７７
ＦＡＸ　（０７５）２１１－７２７０
http://www.kyoto-archi.co.jp/

総合社会福祉研究所　会員のみなさまへ

第26回総合社会福祉研究所定期総会のご案内

日時：2014年８月30日（土）10時半～

場所：エル・おおさか　南館ホール

内容：社会福祉をめぐる情勢の特徴と2013年度事業報告／2013年度決算／第14期（2014年度・15年度）事業計画（案）等。

※その後同会場別ホールにて、第 20 回社会福祉研究交流集会を開催します。
※後日、第 26 回総会および集会のご案内、出欠通知（委任状）を送付しますので、ご返送をお願いします。
※その他、総会・集会に関するお問い合せは下記までお願いします。

総合社会福祉研究所　TEL06-6779-4894　http://www.sosyaken.jp/
FAX06-6779-4895　E-mail:mail@sosyaken.jp

戦争と平和、独立
―― チェコ・プラハを訪ねて ――

アウシュビッツが地獄なら、テレジンは地獄の入口（記念館を訪ねて）

一九四七年、チェコスロバキア政府は、自由、民主主義そして人権の抑圧の悲惨な結果を記憶にとどめるため、テレジン記念館の設立を決定しました。一九三九年三月のナチスドイツによるチェコ占領後、ナチスの恐怖政治の結果、従来の監獄が次第に満杯になり、一九四〇年に国家機密警察（ゲシュタポ）のプラハ本部刑務所が造られ、六月一四日に最初の囚人が送られて来ました。

大戦中にテレジン収容所に送られた逮捕者は、三万二〇〇〇人、そのうち五〇〇〇人は女性。大半はチェコ人でした。その後、ソ連人、ポーランド人、ドイツ人や南スラブ人等他民族も収容されます。一九四五年には、ソ連、イギリス、フランスの軍人捕虜や、フランス人の人質等も送られてきます。

そのなかで、ユダヤ人は過酷な待遇を受けました。囚人の多くは、さまざまな抵抗運動のメンバーでした。囚人の大多数は、この地が中継地点で、ナチスによる裁判や他の収容所に送られ、約五五〇〇人が死亡します。また、テレジン収容所では、劣悪な居住条件で、病気、看守による虐待のため、二六〇〇人が死亡しています。戦争末期には、発疹チフスが広がりましたが、ナチスは何ら手立てをとりませんでした。（写真は、テレジン収容所の地下道から処刑場に通じる道）

プラハを訪れる多くの人が、マリオネット劇場を訪れます。「ドン・ジョバンニ」を観ました。後半には、使い手が舞台に登場し、人形と対峙する斬新な演出もありました。人形はけっこう強面（こわもて）で、阿波文楽を彷彿（ほうふつ）します。セリフも辛辣（しんらつ）。

それは、チェコが列強から抑圧されていた歴史と関係するようです。侵略され、チェコ語が禁じられ、そのなかで唯一マリオネット劇だけは、チェコ語の使用を認められていました。チェコの人々は、ここで反骨の文化を育みました（写真は、木彫りのマリオネットです）。

二〇〇四年五月一日、エストニア、ポーランド等々とチェコはEUに加盟します。以前、ポルトガルのリスボンを紹介しました（二〇一二年四月号）が、経済圏の広域化は、流通を大きく変え、働く環境も変えます。EU資本が入り込む姿を見ます。

こんな話を聞きました。「ロシアの富豪族によって、とくに観光地を中心にホテル等の買収が行われ、チェコの人はいやがっている」。以前、北海道のニセコがオーストラリア資本に買い取られたように。観光が国民の生活を支えているわけでもありません。現在の政権は原発推進派で、南部の二つの原発の電力は、海外に売られています。

プラハで広島を観る

プラハのヴェルヴェ川沿いのチェコ通産省の建物。一九三二年にセセッション建築の代表的建築家Josef Fanta（ヨセフ・ファンタ）が設計しました。広島県物産陳列館（広島原爆ドーム）とうりふたつと言われ、設計者ではないかとまで言われましたが、陳列館の設計は、Jan Letzel（ヤン・レツェル）で、一九一五年に設計され、レツェルは一九二五年に亡くなっています。しかし、原爆ドームと立地条件や建物がそっくりだと写真に収める人もいます。

（写真・文　下野祇園　二〇一四・六撮影）

福祉のひろば

2014年8月号

【ひろばトーク】
支え、ともに感じ、向き合える大人になりたい　仁藤　夢乃　6

●特集●　平和と福祉シリーズ　戦争と福祉は両立しない
石倉康次編集人の声明　8
社会事業史学会会長（永岡正己さん）に聞く　10
京丹後市経ヶ岬を133番目の米軍基地にはしない　三野みつる　18
いっさい解決されない安心・安全への不安　増田光夫　22
米軍誘致は地域の問題を解決しない　26
視察参加者のかんそう　28

●トピックス●
けんぽうの意味をしり、発信する――若者憲法集会　29
学費の心配なく大学に通えたら……　33
改悪生活保護法の後押しを許さない　34
第20回社会福祉研究交流集会inおおさかにいらっしゃい!!　38
介護福祉専門職における現場の育成力に関する研究　44
願いがかなった日から40年！　これからの障害児の教育を考えるつどい！　46
学童保育のこれからを考える　50

●連載●
フォーラム　福祉労働者が壊れていく　前田　鉄雄　56
あれから３年……釜石・東日本大震災を記録する会代表
　五、ガレキに覆われた凄惨な光景に悪夢を見る思い　前川　慧一　58
相談室の窓から　D男さんの思いを探って（その１）　青木　道忠　60
わらじ医者　早川一光の「よろず診療所日誌」　早川　一光　62
育つ風景　保護者の不安に気づく　清水　玲子　64
いっぽいっぽの挑戦（17）
　沖縄で福祉にたずさわるソーシャルワーカーとして　繁澤　多美　66
映画案内　『だいじょうぶ３組』　吉村　英夫　68
現代の貧困を訪ねて　生田　武志　70
　「大阪市生活保護行政問題調査団」活動の報告
なにわ銭湯見聞録（拾六）　ラッキー植松　72
いただきます！
　いつまでもおいしく！　やわらかお肉料理　貝塚こすもすの里　74
ホームレスから日本を見れば　ありむら潜　76
花咲け！男やもめ　川口モトコ　77

みんなのポスト　54／今月の本棚　53／福祉の動き　78
●グラビア●　戦争と平和、独立
――チェコ・プラハを訪ねて――

●表紙の絵●
神門やす子

●カット●
川本　浩

ひろば トーク

支え、ともに感じ、向き合える大人になりたい

一般社団法人Colabo代表　仁藤（にとう）　夢乃（ゆめの）さん

社会的に孤立しやすい高校生

高校時代、私は渋谷で月二五日を過ごす「難民高校生」でした。中学三年生のときに父が単身赴任することになり、仕事をしながら反抗期の娘たちを一人で育てることになった母は、ストレスでうつになりました。仕事に行けずに寝込んでいる母と私は衝突するようになり、私は家族と顔を合わせるのがいやで、放課後を渋谷で過ごすようになりました。昼夜逆転して眠れない日々がつづき、遅刻や欠席が増えると教員から注意されるようになりました。「家族も教員も本当の想いを分かってくれない」と、私はまちに出て過ごすようになりました。やりたいことも夢もなく、学校に行く目的がもてず、高校を二年生の夏に中退しました。

私は、家庭や学校、ほかのどこにも居場所がないと感じている高校生のことを「難民高校生」と呼んでいます。当時の私や友人たちは、家庭にも学校にも居場所を失くした「難民」でした。家庭と学校の往復を生活の軸にしている高校生は、そこでの関係性がくずれると社会的に孤立しやすい状況にあります。どこにいても落ち着かず、安心して過ごすことができなかった私は、ファストフード店や漫画喫茶を転々とし、段ボールをしいてビルの屋上で一夜を明かしたこともあります。そこは、大人の目にふれない「難民キャンプ」のような場所でした。

まちをさまよう私たちは、多くの大人たちから冷ややかな目で見られていました。声をかけてくるのは、援助交際をもちかけてくる男か、水商売や風俗など裏の世界に引きずり込もうとする大人だけ。友人たちは、どんどんそういう世界に入っていきました。

にとう　ゆめの

1989年東京都町田市生まれ。中学生の頃から「渋谷ギャル」生活を送る。高校中退後、故・阿蘇敏文氏に知遇を得て農業、NPO、国際活動に触れ社会活動をはじめる。東日本大震災後「Colabo」を立ち上げ、被災地の中高生・地元企業との協働プロジェクトを実施。

2013年、『難民高校生――絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル』（英治出版）出版。居場所や社会的つながりを失った高校生や性的搾取の対象になりやすい青少年の問題を発信するとともに、少女の自立支援を行っている。

若者と社会をつなぐきっかけの場づくりを

そんな生活をつづけていた私ですが、高卒認定合格をめざして通った予備校で、ありのままの自分に向き合ってくれる人と出会いました。農園ゼミを担当していた私より五〇歳年上の、牧師で元教師の阿蘇敏文さんです。阿蘇さんは、農作業を通して一緒に汗をかくことで信頼関係を築き、一緒に感じ、考え、行動を後押ししてくれました。私は視野を広げ、前向きになっていきました。

その後、大学に進学した私は社会活動にかかわり、充実した日々を過ごしていましたが、渋谷の友人たちはみな、難民生活から抜け出せずにいました。そのことに気づき、高校生に目を向けた活動をはじめました。

Colaboでは社会的なつながりをもたない一〇代の少女、とくに性搾取や違法労働にいきついてしまった少女をサポートしています。こうした現場には、家族からの暴力やネグレクト、学校でのいじめや高校中退など、家庭や学校からもれた子どもが多くいます。危険な仕事が、居場所をなくした少女に「衣食住」と「関係性」を提供し、生活を支援している現状があります。

高校中退者は年間約五万五〇〇〇人、不登校者数高校五万人、中学九万人、一〇代の自殺者数は毎年五〇〇人以上です。六人に一人が子どもの貧困状態にあるといわれるいま、さまざまな問題が重なって、居場所やつながりをもたない「難民高校生」がうまれています。すべての子どもたちが「健康で文化的な最低限度の生活」を送れるよう、私は阿蘇さんのように子どもたちをはげまし、支え、ともに感じ考えてくれる大人になりたいと思っています。

〈声明〉

平和と社会保障の危機を反撃の転機に

福祉のひろば編集人　石倉　康次

武力によって国際紛争を解決することを放棄した憲法九条をないがしろにし、「集団的自衛権」を建前に、「専守防衛」というこれまでの政府見解をも逸脱する「政策」を、公明党は政権与党にとどまるために自民党と大筋合意しました。憲法改正をせずに、日本を海外で武力行使に踏み切れる国にし、戦争へと引きずり込まれる道に重大な一歩を踏み出す選択をしたことになります。国会が開かれていない時期に、かつ多数の国民世論に背を向け、そのような重大な選択をするという独裁的な体質もあらわになりました。政権党のこのような態度と選択は、若者のあいだに、徴兵制復活につながるのではないかとの怖れ（おそ）をひろげています。また同時に、広範な国民のあいだに現政権への深刻な不信と離反をひろげることになるでしょう。

また一方、第二次世界大戦の際に日本軍によって肉親の命をうばわれた生々しい体験をもつアジア太平洋地域の多くの人々に、日本への不信感と警戒感を呼び覚ましつつあります。それは戦後、不戦の誓いをして憲法九条をもつ国として信頼回復の努力をし、ひとつひとつ築きあげてきた経済や文化・スポーツ分野でのグローバルな交流の成果を掘り崩していくことになるでしょう。第二次世界大戦以来二度目の国際的な裏切り行為は、おそらく日本の国際的信用の回復不能な失墜をもたらし、若い世代の国際的な活躍の場を、狭めることを憂慮しないわけにはゆきません。

安倍政権は、すでに四月一日に、法の平和主義に基づいて武器輸出を全面的に禁じてきた「武器輸出三原則」